

岳北地域高校の魅力づくり研究協議会 第2回飯山高校部会 会議録概要

- 1 開催日時 令和2年9月28日(金) 午後1時30分～2時50分
- 2 場 所 飯山市役所4階 第2委員会室
- 3 出席者
- | | | |
|------|-----------|--------|
| 部会長 | 飯山市長 | 足立 正則 |
| 副部会長 | 野沢温泉村長 | 富井 俊雄 |
| | 飯山市教育長 | 長瀬 哲 |
| | 野沢温泉村教育長 | 岩上 芳宗 |
| | 飯山高校同窓会長 | 宮本 衡司 |
| | 飯水中学校長会長 | 山田 晃 |
| | 飯水PTA連合会長 | 吉越 伸吾 |
| | 飯山高等学校長 | 滝澤 崇 |
| 事務局 | 教育部長 | 常田 新司 |
| | 子ども育成課長 | 岩崎 敏 |
| | 学校教育係 | 佐藤 優季子 |

4 会議の経過及び発言

1 開 会

子ども育成課長)

定刻となりましたので、只今から岳北地域高校の魅力づくり研究協議会 第2回飯山高校部会をはじめさせていただきます。なお、本日オブザーバー委員の県教育委員会の上原様ですが、下高井農林高校部会が同時刻で開催されており、そちらへ出席されるため欠席とご連絡いただいております。会議に先立ちまして足立部会長よりご挨拶申し上げます。

2 部会長あいさつ

部会長)

大変ご苦勞様でございます。岳北地域高校の魅力づくりですが、飯山高校部会ということで第2回目となります。それぞれ前回の後ご意見をということでお願いした訳でございますけれども、また今日それも含めてそれぞれご意見を出していただきたいと思っております。農林高校部会も本日2回目開催しているということですので、当初の予定を見ますと10月中下旬には全大会ということですが、農林高校部会の進捗状況も踏まえて10月中に全体会をするのか、また部会をするのかその辺も検討いただければと思いますのでよろしくお願いいたします。

子ども育成課長)

協議事項に入ります前に、資料の確認をさせていただきます。次第と綴じてあります資料1「飯山高校部会資料」、資料3「今後の進め方」、別添になりますが資料2「第1回下高井農林高校部会会議録」を参考に付けてあります。それから、委員の皆様から出されました課題等の意見、参考資料ということで高校の改革についての記事も付けてあります。それでは協議事項は部会長の進行でお願いします。

3 協議事項

(1) 飯山高校課題について

部会長)

それでは、早速協議事項に入ります。それぞれ皆さんからご意見をいただいた物を、1枚めくったところに事務局でざっくりまとめてあります。この前の意見も含めまして提出いただいたものに拘らずにご意見を出していただければと思いますのでよろしくお願いします。飯山高校の課題等についてということで、それぞれ考えていらっしゃることをお願いします。順番にお願いしたいので、山田先生からお願いします。

飯水中学校長会長)

私が出させていただいたのは2頁目のところであります。飯水の中学校部会でも話題に出しまして、私の意見だけではなく総合して出させていただきました。5点ありまして1点目ですが、広域からの通学を可能にしたいということで中野市・山ノ内方面、須坂市・小布施町方面、長野市方面、飯綱町・信濃町方面からの通学がよりスムーズになるような交通環境を整えていただけると飯山高校に来る生徒が増えるのかなと考えました。

2点目ですが北信の中学校の先生に飯山高校をもっと知ってもらいたいなというところですが、旧第1・第2通学区のところでは割と分かっていたかと思えますが、長野市等々のところ、須坂市になるとしっかり分かってられない方もいらっしゃるのかなというところもありまして、中学校の進路指導の担当者、または3学年職員に詳しく理解していただいて、生徒の進路指導に生かしていただければと思います。長野市内には多くの高校がありますけれども、飯山高校としての独自の取り組みがありますし、探究科、スポーツ科というところについても、何をどのように学んで、どんな力を付けているのかというところを具体的に知ってもらえるようにするとさらに1人1人の中学生の進路指導に生かしてもらい、飯山高校を選択する生徒も出てくるのかなと思います。

3点目なんですけど、今も飯山高校で詳しく出していただいて、私も毎回見させていただいていますが、学ぶ姿や成長する姿を具体的に発信していただいているので、それをさらに広げていきたいなと、もっともっと知ってもらえるようにしていきたいなと思います。今、3年生を中心に配っていただいておりますが、更に多くの住民の皆さんにも知ってもらえるような形がどうかと思っています。その中でも1つの大事な柱となっているSSHの具体と1人1人の飯山校生がこんな風に変容したよ、成長したよということが今も出されていますが、更に具体的に知ってもらえるといいのかなと思います。

4点目ですが、私の子どもも飯山北高で2人ともお世話になりまして、当時先生方がきめ細やかに対応してくださって、他の高校だと塾に行っただけで受験勉強するというのですが、働き方改革もあって大変だとは思いますが、当時は時間を超越してご指導いただいて、それが非常に有難かったと思っています。そういうきめ細かく熱心に関わってくださる先生方が今も飯山高校におられると思います。伝統が受け継がれていると思いますので、そういう先生方がいるということを知ってもらって高校選択の1つの材料にいただければと思います。

また、大学受験ということもあるのですが、いろいろな分野で地域社会の成長、発展を担うことができる人材の育成ということが大事だと思いますので、人材育成に取り組んでいくということも大事な柱にしていただけるといいと思います。1人1人の生徒が自分の夢に向かって進んでいける、実現できる環境が飯山高校にあるということを知ってもらえることを大事にしていくといいと思っています。以上です。

飯水 PTA 連合会長)

私のは3頁です。長野県北部の学校としての独自性、白馬高校に観光の学科ができたりと意識する部分があるのですが、北部でやるからメリットがあるのだよというようなアピールができていないかなと思います。先般、富井村長もおっしゃっていましたが、私学ではないので限界があるかなと思いますが、そのあたりは自治体の協力があればできるのではないかなと思います。あと、飯山高校の現状、飯山北高の頃から思っていました、交通の便については長野市以

北の高校にしては優れていると思っています。通いやすさがあると思う。それから、高校の内部の情報が伝わってこないと身近に感じないということがありましたので、進路を選んでいく際にアピールが足りないのかなと思います。野球で甲子園に行ったのは、地元意識というか、学校への愛着というか非常に大きかったと思います。

次ですが、これから飯山高校が歴史を作っていく中で、3校が合わさったということでOBの結束や意識、愛着が無くなってしまった、下がってしまったのかなと思いました。先般お話ししたのですが、実業高校や農林高校部会の資料にもありましたが、就職等、伝統やOBの力は大きいのかなと感じました。これからやっていくべきだと思います。

最後になりますが、職業との結びつきの弱さです。職業高校という卒業したらすぐに就職となると思うが、高い学力や高校以上への進学もなければ就けない職業もありますので、飯山高校のメリットとしてアピールできれば良いと思います。ただ、飯山高校へ来るのはそればかりではないと思いますので、飯山市内や近隣でもその高校を出たからということに拘らず、人を呼べるお仕事をされてる方もいますので、そのあたりアピールしていければ、飯山高校へ来ること自体だったり、長野県北部の方に関心を持ってもらうことにもつながると思います。以上です。

飯山高校同窓会長)

話は飛んでしまうかもしれませんが、県議会の中でも自分たちの地域の高校をどうするこうするというのがあるんですけども、面白いことを言ったなと思うのが、南佐久のある議員が、私達は千曲川の源流だと、流れ流れて飯山市、栄村が千曲川の下流だということで、千曲川を1つに考えてみて、例えば川幅だとか、その土地土地の今まで培ってきた文化だとかを、千曲川の上流から下流まで関わっている高校生達に研究させるのも面白くないかと言うので、なるほどと思った。せっかくこういう悠久の流れの千曲川があるのだから、地域の文化や自然環境等を高校生がそれぞれの物を持ち寄って勉強していくのも面白いなとそんな提案をした県会議員もいました。月並みな言葉ですけど、何か1つの題材を生徒たちに与えて、直接進学や就職には関係ないと思いますが、1つのきっかけとして信州、長野県の中にある高校が千曲川を題材にして繋がりを勉強して連携を図っていくのも面白いと思います。ちょっとしたきっかけで地域を知る、また長野県を知る、また自分たちの取り巻く環境はそれぞれ違うんだというふうに発展していけば、信州の北の端にある高校に別な意味で新しい道が芽生えてくるのではないかなと思う。絶えずそういう物を子ども達に勉強、研究の材料として流せばいいと思う。そういう環境づくりが必要だと思います。

野沢温泉村教育長)

同窓会長さんの話にもありましたが、生徒による研究、そこに私はヒントをいただいたと思っています。野沢温泉村の村議会でもある議員から、教育長達がこういう会を開き県へ答申を上げた、その中でどれだけ中学3年生や現在農林、飯山高校の生徒達に今こういう議論が大人の中でされていて、それに対して自分達はどうか、中学生高校生の声がどれだけ反映されているのかということが出され、要望や意見を吸い上げて、できる限りそういう声を反映させたいと申し上げました。野沢温泉村の教育長として飯山高校や下高井農林高校の生徒にアンケートを取ったり、集まってもらって、高校再編のこういう状況が大人の中で論議されているということを知っているか、あるいはそれに対して高校生がどんな考えを持っているかというのを模索しようと思いました。しかし自分の立場から簡単に飯山高校へ行って子ども達に集まってもらってそういうのを聞くという行動はできません。学校へ持ち帰ってもらって職員には話しかけていると思うが、生徒達に話しかけていないところへ私が突然動いてもいけない。中学校の校長先生も子ども達には、教育長さんや地域の皆さんがやがて将来行く下高井農林高校や飯山高校のことについて、こういう論議をしていることを知っているか、それに対してどうかということ投げ掛けていない。投げ掛けるとしたらアンケートを作って回収してということになると思うが、簡単に私1人では動けないので校長先生のご理解を得ながらだと思っている。どんなふうに子ども達の思いを吸い上げてここに反映していくべきなのか。と同時にもう1つは飯山高校、下高井農林高校の先生方が学校をどうしているかとかいう、ここでこういう話し合いをしていることを受けて、現場の先生方を中心にして飯山高校の将来像を語る会を実際やろうとしているのか、現場の先生方や生徒達の動き、思い、願いをもう少し反映できないかというふうに思う。

この課題シートにも皆さん答えて、いろいろ書いていただいているが、実際飯山高校の現場で授業をやっている先生方が自分の勤めている飯山高校をこんなふうにしていこうという絵を、この飯山高校部会と同時に学校でも校長先生がいらっしゃるのだからやっていってもらいたい。校長先生もずっと教員できて、教頭で大変苦労して、やっと校長になって自分の思いで学校づくりができるようになった訳ですよ。そこで校長先生が培ってきたものを土台にした飯山高校をこんな学校にレベルアップしていきたいというロマンを描いてそれを先生方にぶつけていってもらいたい。そういうリーダーシップを校長先生がとらないと、現場の先生からはなかなか出てこないと思います。校長先生が投げ掛けることによって、それが賛否両論いろいろ深まると思う。義務の校長先生を見ていてもそうですけど、校長先生が学校づくりのロマンを投げ掛けないと先生方の意識が1つにまとまって高まっていかない。ぜひ飯山高校の生徒達、先生方の中で自分の学校を将来どうしていくかということ組織して開いてもらいたい。

そういうことを希望しながらも、私とすれば飯山高校の探究科はやはりもう1歩一流大学を目指して、進学を取り組みを計画的にしてもいいのではないかと思います。普通科とあまり変わらない状況になってきていると思う。普通科は多種多様、探究科に入ろうと思ったが力が足りなかったから普通科に回ったというような思いもあるだろうから、普通科の方は探究科に追いつき追い越せで、入る時は探究科に入れなかったが出る時には探究科の皆さんを追い抜いて更なる上の学校を目指す探究心、向学心を持つよう先生方がそういう方向で動いてもらわないと厳しいかなという思いもある。

スポーツ科は大事な特色があるので、スポーツ科へ集まってきた皆さんそれぞれが持っているスポーツの技能を磨き上げるような体制づくりを精力的にしてもいいのではないかと思います。だから私は飯山高校の現在の科はしばらくそのままのままでいくのだから、それぞれの科の取り組みをもう1つ、外から見てもやってるな、取り組みだしたなということ地域の人に分かるように先生方にも取り組んでももらいたい。高校の先生方の意識は分かりませんが、ぜひ校長先生のロマンを基に新しい高校づくりをスタートさせてもらいたい。同時に子ども達に自分はどう学ぶべきかということ協議する場を設けてもらいたい。それとこれが合致すれば大きなうねりになるのではないかと思います。以上です。

飯山高校校長)

いろいろなご意見で自分も振り返りながら、もちろん今頂いている助言等は全くやっていないわけではないのですが、こちらが思っているよりも不足してるのだなということをはっきりと感じますので、そういったところを更にアピールをはじめ、目標の明確化等はしていこうという気持ちと、ほんとに貴重なご意見だなと聞いているところです。

副部会長)

私の立場でポイントを絞ってやると問題が起きるだろうから、全体的な意見で言いますと、我々高校が所在していない小さな村、野沢温泉村もそうですが、親は熱心です。子ども達に対してすごく期待をかけ、教育に対してお金をかけています。多分スキーにかかるお金よりも教育にお金をかける親の方が、金額も数も多いと思います。1つの理由はスキーだけやらせてもスキーでは食べていけないというふう考える都会から来たお嫁さん達も結構いるので、それだったらそれ以上のお金を子ども達にかけたい。子ども達にお金をかけて勉強させればさせる程、村へ戻ってこないという現実もあるので、その中でまず1つは自分が生まれ育ったところが子ども達にとっても魅力があり自慢できる故郷なのかどうか、これを基本に置くことで高度な教育をさせても戻ってくる可能性は高いのかなと思います。むしろそう思わせながら、自分たちの故郷を自慢できる魅力ある村と感じながら、高校・大学へといった子はいずれ村に戻って、村のことを次の世代に渡すために努力したいという子ども達がいる。こういう子ども達にみんななってくれば将来も安泰なんですけれども、そんな子ども達ばかりではない。現実には今スキー場がメインの産業ですが、スキー場を運営している会社の社員、従業員も足りない。応募しても地元の子が来ないというがあるので、この辺我々自身が考えていかなければいけないのかなと思います。子ども達に対するの魅力という物を。

これと同時に高校で校長先生も言っているが、探究科は確かにいい制度だと思いますが、探究科という言葉が分からない、何を探求するのか。ただ私立の進学コースだとか、東大、京

大受験コースとか具体的に打ち出してくれた方が親も子どもも理解できるのではないかと思います。探究科はなかなか難しい。

この地域の特性なのかもしれないが、白馬高校の話が出ましたけれども、実は白馬村は環境危機事態宣言を長野県よりも先に出しました。白馬村の下川村長の話を知っていると、彼がなぜこの宣言にこだわったのかというと、去年の国連でのグレタさんの演説を聞いて、白馬村の高校生がこれは危ない、大人に任せておけないということでそれに賛同して、白馬駅から細野地区までデモ行進をしたと、それがあったのでそれと同時に去年インバウンドにより国際化を目指していたので世界にアピールするためにはどうしても必要だったということがあった。同時に白馬村の生徒達は、自分の高校の屋根の屋根裏に自分たちで断熱材を入れながら、省エネ化、環境にやさしいことを自分たちができることで考えた。昨日の新聞だと思うが、長野高校がごみのポイ捨てを無くすために、ポイ捨てしないようにという看板を首にかけながら有志でごみ拾いをしたというような活動を若者達がしている。そういう社会、地域だからこそ高校は生きてくるのではないかと思います。これからは高校生が地元でどういうふうに分たちの将来の姿を夢見て活動できるか、また活動しやすいような地域にしていくかが結果的には高校に魅力を感じる場面になってくるのではないかと思います。ただ、飯水岳北地域の高校の子ども達は比較的みんなおとなしい子が多いのか、目立たないと言ったらいいのか。これを先生方もそういう観点から子ども達を盛り上げていけるようなことをして、野球、スキー、スポーツだけでなく、社会問題に対する活動も高校生が自らできるような場面を先生達が与えてあげるのが私はいいいことではないのかなと思います。

全体的に人口が減りますので、縮小せざるを得ないのだけれど、縮小するかどうか、生き残れるかどうかというのは結局その高校に存在感があるかどうかの問題になると思います。カリキュラム自身は県立ですから、それも県の中でもレベルが高い方だと言われているのだったら、人口減少はしかたのないことだけれど、長野県立高校がたくさんある中で最後まで残れる高校は、それだけの価値観が子ども達に見出せるかどうかにかかってくると思います。ただ、県立高校ですから長野県の教育委員会が今日は来ておりませんが、長野県下の中での高校の在り方をどう考えるか。我々、野沢の子ども達は選ぶことしかできないので、こうしてほしいということはなかなか言い辛い。ましてや行政の首長であったとしても村立の小中学校でしたら文句も言えるが、高校で私の管轄外になってしまうとこれは要望でしかないなというような気がしています。以上です。

部会長)

前回も言いましたが、昔は高校教育の位置付けが明確だったと思うんです。まず義務教育があって、それから高校、大学や更に上の高等教育があるんだけど、昔は義務教育というのは社会生活に必要な基本的な基礎学力を付けさせることが目的で、それは要領に従ってやっているといます。高校教育というのは日本が高度成長期の時に更に大学進学を目指してそこから大手の企業へ行く。その時は非常によく機能していたと思う。もちろん職業に就きたい人は実業高校へ行っていたが、今はその基本的な構造は無くなってきてしまった。高校教育は何するところということが不明確になってきてしまった。高等専門知識を学ぶ訳でもないし、多様性というか、何のために行くのか分からなくなってきてしまった。例えば飯山高校の学校要覧を見ますと、「未来を創造する人材の育成」としか書いてなくて、未来を創造する人材の育成とは一体何なのかと言いますとよく分からないです。これは公立高校なので長野県としてそういう方向でやっているのだけれど、ほとんどの方が高校へ進学するんですけども3年間勉強してその次に自分の進む進路の中でこの3年間はどのような役割なのかというのが非常に分からない。そういうことが現実的にあるのではないかと思います。

特に飯山高校は3校を統合しましたので、それぞれの従前の高校の特徴を引きずってそれが1つになっちゃったんですね。だから先生方の指導の面でも非常に大変な部分もあるかと思いますが、飯山高校だけの問題ではないと思うのですが、飯山高校としてどういう位置づけをしていくのかということをもっとしっかりしなければいけないんじゃないかと思います。3年間そこで勉強したら次に自分がどういうふうに分を進めるのかというような、ある程度進路がしっかり分かってからそれに沿ったカリキュラム、学科編製をして外へ提示していくべきだと思います。今普通科の話も出ていますが、飯山高校の場合は大学進学を目指す場合は探究科が受験の学科ということだが、都市部の高校の普通科の方が大学進学率から言うのが高い訳です。長野県下全体とすると人口の多いところには大規模校、人口の少ないところには地域高校という位

置付けで規模を考えているのだけれども、例えば大学進学ということを考えた場合、やっぱり都市部の方がはるかに有利というか、結構このエリアからも長野市、都市部へ行く生徒が多い訳だけれど、飯山高校というのは岳北地域の中でやっぱり大学進学を目指す進学校だから、進学校としての機能の充実をもっとしっかり図るべきだと思います。そうでなければ比べた場合に都市部の方が有利だったら、全部都市部へ行ってしまふのが当たり前になっちゃうので、そうではなくて、飯山高校ならではの特色をしっかり目指す、目標を示すことがとても大事だと思います。

それから、日本の大学を目指すのではなく、海外の大学を目指すくらいのことを考えるくらいでもいいと思うんです。たまたま飯山市と大阪市の団体で交流があるのだけれど、そこは市がやっているわけではなく大阪市の任意団体がやっているのだが、何をやっているかという、少し広範囲に生徒を集めて海外のエリート校、ハーバード大学とかアメリカのケンブリッジとか、そういうところへ入学したい希望者を集めて勉強させる。だから日本の受験と全く違うんですよ。ただ点数が取れるから入れるという訳ではなくて、考え方とか。そういうのを任意に集め飯山や野沢温泉で合宿をやっているのだけれど、そういうことを考えるくらいでも飯山高校は都市部ではないけどそういうことができますよというの、これは1例ですがいいと思います。都市部の普通科とは違うという飯山高校と言った場合には、進学する上でも特徴を持ったことを考えていかないと、同じ機能だとするとどうしても負けちゃいますので、そのためには県の教育委員会がしっかりそういうことを指導できる教育体制を作っていない限り難しい。でも、そういうことを考えていかなくてはいけないような時代になってきていると思います。全国的に見ても長野県は日本の国内の大学進学率を見たら、長野県より人口の少ない北陸の方が非常に日本の大学への進学は強い。それは何なのかということもあるが、そんな内容も含めて特色ある進学校という位置付けをもう少し明確にして打ち出していく必要があると思います。

飯山市教育長)

それではまず、資料をご覧ください。皆さんに見ていただきたいのは小中は新しい学習指導要領になったのですが、高校も2022年からガラリと変わります。特に普通科が変わります。飯山高校は普通科です。小中では既に答えのない課題をどうやって探していくかということで取り組んでいます。例えば1番、主な科目編成が再編されて皆さんが高校で学んだ、世界史、日本史、地理などは全く名前が変わります。ということは飯山高校も2022年からこの新しいシステムで勉強するわけです。ですからまず我々は2022年から飯山高校が日本の高校教育の中で全く新しい飯山高校に生まれ変わらなないと乗り遅れてとんでもないことになってしまうという認識が必要だと思います。

それから出口の部分の入試、推薦、AO(アドミッションオズフィス)入試も変わってきていて飯山高校の生徒が現実にセンター試験で実力で行っているのか、推薦で行っているのか、アドミッションズオフィスで行っているのか、その3つがどういう現状になっているかですよ。本当に力のある高校生だったらセンター試験を受けて、国公立のその学校の試験を受けて入っていく訳です。飯山高校の進学の実態がどうなっているか、私としては気になります。もう1つは、飯山高校の役割ですが、私は飯山高校の伝統、地域の進学校としての役割を徹底して維持発展させていかなければ飯山高校の将来はないと思います。というのは、この地域の子も達にとって長野まで通ってお金をかけて行ける子はいいが、長野まで通えない生徒もいっぱいいる訳です。そういう生徒が飯山高校で勉強すれば次へつながるんだということを理解できるような出口の部分をもっと明確に飯山高校で出口の部分を示して、この地域の保護者や地域住民や高校生や中学生が納得できるものが目の前にあれば飯山市外へ行く生徒はうんと減ると思います。

それからもう1つは入口の部分はどうなっているかですよ。例えば、探究科、普通科、スポーツ科で合格点にどのくらい違いがあるのか、それがまず我々は全然分からない訳であります。皆同じレベルで合格しているのか、ものすごい差があるのか、もしとんでもない差があるのだとすればそれは小中の責任だと思います。飯山高校の価値を上げるためには、市町村の小中も真剣になって子ども達の学力向上を考えないと飯山高校のレベル向上につながらないと思います。ということは、飯山高校だけの責任ではなくて、半分は市町村の小中の先生方の授業力にもうんと関係してくると思います。ですから、飯山高校の将来は地域全体で考えていかなくてはならない非常に大事な課題だと思います。飯山高校が沈没するという、この地域から優れた人材を育てていけないということは地域の沈没につながります。そういう認識でやっていか

ないと、飯山高校の課題というのは解決につながらないと思います。

そのためにはどうするか、小学校、中学校の先生も頑張るのですが、飯山高校の先生方が目の前にいる多様な子ども達をどこまで引き上げてやるんだと、強い全員の意思統一がなされているかどうか飯山高校の将来につながると思います。公立の校長先生は4・5年で変わっていった訳ですが、その中でどうやって飯山の子ども達をより良くするか、先生方に頑張ってくださいと言った時に、「分かりました」という先生がどのくらいいるか。いろいろな方向を向いている先生方がいればいるほど大変だと思います。地域としては小中のレベルアップを図って、いい生徒を入口から送り込む。そして飯山高校はそれを責任持って更により高いところまで伸ばしてやって次のステップへつなげてやる。公のお金で子ども達への公の教育に力を入れれば、子ども達は公の教育から受けた恩を必ず何らかの形で感じ取るはずで、ですから公の教育をしっかりこの地域でやってやるのが将来この地域に戻ってくることに繋がると思います。もう1つ心配なのは、3つの学校が1つになってここ4・5年はうんと大変だと思います。全く新しい飯山高校を生み出す以外に母校愛は生まれてこないと思います。今の3つのバラバラの状態で頑張るのでしたら、将来飯山高校は1つの学科編製になるようにしていった方がいいと思います。そうすると母校愛が1つの結節点につながると理解しております。

もう1つは、私がかつていた学校は本当に大変でしたが、結局良くなったのは先生方の結束した力以外ないと思います。この学校を何とか良くしようというのは、目の前にいる子ども達を何とか良くしたい、良くしようということで、きつい言葉で言うと、目の前にいるのが自分の子どもだったらどうするんだという、そのくらいの覚悟がないとなかなか目の前の子どものために必死で何とかしてやろうというところへつながっていかないと思います。ですから1番は出口の部分で少なくとも3年計画、5年計画、10年計画くらいで具体的に数値目標を挙げて頑張ることが地域から信頼を受けて地域から子どもを送り込むような形につながると思います。公立高校の場合いろいろな難しい問題があると思いますが、そのくらいやらないと飯山高校はかつての飯山北高のあの時代が戻らないのではないかと思います。

資料2枚目、35頁36頁は先程から問題になっている新しい方向性で現にやっている学校もある訳です。いろいろな公立高校、私立高校が取り組んでいる1つの例です。40頁41頁は私学ですが具体的に特色のある教育をやっている、公立でもやっているとこがございす。42頁43頁は今問題になっているオンライン授業で単なる授業中継ではなくて更にその先をいったような大阪の府立高校とかがある訳です。44頁45頁はオンライン対応力で差と大胆な予測をされています。46頁47頁は勉強も大事だけど、部活も子ども達が輝ける部分があるんですよということを言っています。それからいろいろなところで報道されていますが、48頁49頁は隠岐島の島前高校のことが書いてあります。そして50頁51頁は長野県でも非常に増えてきている通信制高校の在り方です。ですから、教育が非常に多様化してきている。その中で飯山高校が分かりやすく生き残るために何をしたらいいか、それは入口と出口の部分、この2か所をチェックしてやっていく以外に道はないと思います。いろいろな村に住んでいるいろいろな経済格差がある訳です。その子ども達が最後飯山高校を拠り所にして自分が更に違った世界に行けるような場所としてぜひ飯山高校の地盤を確立して、この地域のいろいろな家庭事情の子が目指して、飯山高校へ行けば何とかなるんだとそういう学校になればいいなと思っています。飯山市が医学部の生徒に奨学金を出したり、教員志望の生徒に奨学金を出したりするのも、その1つの飯山高校のバックアップの形につながっていると理解しています。

最後に1つだけ飯山高校は文武両道で行くべきだと思います。というのは、運動ばかりやるのもいいのですが、勉強をやりながら運動もやる、その文武両道で行くのが飯山北校の伝統であるし、飯山高校が生き延びる大事なポイントになると思います。以上です。

部会長)

いろいろ意見を出していただきましたが、何か皆さん方の方でありますか。

飯山高校同窓会長)

前も出ていたが、探究科なんて霞みがかかった名前ではなくて、明確に進学に特化した進学科でもいいのではないかという話がされていると思うのですが、今日は県教委の方が来ていないので分からないが、それは各学校の裁量でできるのですか。探究科というネーミングにこだわる必要があるのですか。

飯山高校校長)

科によって教育課程が変わってきますので、飯山北校の理数科時代からの継続性の中で、理系の子ども達を探究科中心にと始まっている探究科なので、いわゆる普通科の学校よりも理数系の専門的な科目が多くなっています。本当に特化して理系も文系もとなるといわゆる普通科という名前の下で国社数理英の単位数を増やして共通テストの点数を高めるという方向に行くというのが一般的な流れなんです。

飯山高校同窓会長)

探究科は従前たる進学科じゃないということですか。

飯山高校校長)

はい。探究科は新学習指導要領の中にある主体的で対話的な深い学びの中の探究する力を高めようとなっていて、各大学が今年度から自分たちの求める生徒をホームページで発表していく訳ですが、その際プレゼンの能力だとか単なるペーパーテストではなくて研究したことを伝える力というのも大学とすれば優先的に見るようになっていくので、探究科の探究活動が入試の点で有利になる可能性も今後あるんだろうなと思っています。共通テストの点数という部分と探究活動の探究する力、プレゼンする力、その辺を両方やりたいのだけれど、両方やっていると中途半端と言われたりというジレンマがあるのは事実だと思います。

部会長)

教育長が用意してくれたんですけど、今度普通科の学習指導要領が大幅に改定されるということを見文科省が検討している。これを見ると、探究とか論理がキーワードで、結局今の普通科も探究科のカリキュラムになるのではないかなという気がする。国は今の普通科そのものを探究科的なカリキュラムに変えていく。もう、そういう必要性があるので大幅に変えようということを考えているのではないかと思う。そうすると区別できなくなる。

飯山高校校長)

少し前に普通科を地域探究科に変えることができるみたいなニュースが出たんですが我々の認識だと他の都道府県の本当に大都市部の普通科の高校に対して変えられるよというふうに見ています。飯山高校は2クラスしかないですし、そもそも地域と関わったこともやっていますので、普通科と探究科というものは今までもアピールしていたとそのニュースの時には思っていました。新科程の科目ですが、概要は発表されたのですが教科書ができていないので、どの科目を何単位にしていくべきなのか現場でも大変困っているところです。科目名だけが先行しているというのが事実です。

部会長)

どなたか他にご意見ございますか。

副部会長)

長瀬教育長が言っていたのですが、今の探究科と普通科って大学合格率とか普段のテストにそんなに差があるのですかね。無いのだったら探究科の意味がないのではないかと思います。現実はどうなんですかね。

飯山高校校長)

それは、国公立への進学者数を比べてみると明らかに違います。

副部会長)

その辺が本当に違うのだったら、中学生に対してもっとアピールする必要があるのかなと、保護者も子ども達もとりあえず入れればいいやと。探究科の方が先に推薦があるのだから知らないが、どこでもいいやという感覚がすごく高いので、探究科ということを理解してないのではないかと思います。探究科へ行くとかこういう授業をしてこういう結果だよということが、中学校に対してアピールが足りないんじゃないかと思う。名前にこだわった訳じゃないので、中身にこれだけ差があるよ

ということを出してアピールしていかないと、どこに行ったって一緒じゃないかと親は皆そう思っていると思う。推薦で決まればどっちでもいいと思っている。

飯山高校校長)

ご指摘はおっしゃるとおりだと思っています。以前から教頭や進路の係の者が中学校におじゃまして進路説明会をする時に、会話の中では、大学へ進学したい子、特に国公立の場合は探究科だよという言葉を使っては説明しています。

副部長)

それと入学してからの問題だけど、探究科というのはある程度のレベルを求めるものだと思うんですよ。特化するなら、そのレベルに達しなかったら途中で普通科に移動させるという教育はできないですか。でないと、レベルが維持できないと思います。同窓会長や教育長も含めて、我々飯山北高時代は1学年6クラスあって、1〜3クラスまで、4〜6クラスまでの間で数学と英語だけは実力だったんです。クラスに関係なくA、B、Cクラスに分かれる。両方Cクラスの人には大学を諦めなければならぬ。そういうことを先生からきつく言われて、当時の受験は英語と数学さえ何とかなれば良かった。昔の方が厳しかったと思う。皆さん覚えてますよね。学期ごとにクラス替えがどんどん入ってくるので、大変厳しい世界です。退学はさせないけれども、成績が悪ければAクラスからCクラスへ平気で落とされるんです。それが所属しているクラスとは別なんです。全てが平等みたいな考え方で遠慮しながらやっているのとレベルが下がってきてしまうという気はします。

飯山高校校長)

現状は自分の進路に沿って、数学を1週間に6時間やる子、5時間やる子、4時間やる子というふうに変更科目があって自分で選んでいくというシステムになっています。点数によって振り分けてということではなくて、これがピッタリ一致しているかどうかはわかりませんが。

副部長)

我々、点数の世界でしか生きてこれなかったから、競争率が激しかった。しょうがないが、今の子ども達にそれを押し付けちゃいけないよね。

飯山高校校長)

3つの高校の伝統全て引き継いで継承していくということはとっても難しいということは感じています。でも、それが求められてるのだらうという思いもあります。

部長)

他にどうでしょう。カリキュラムの方向もおそらく変わってくるだろうと思いますが、普通科や探究科は上の大学進学を目指して入ってくる学科なんだよね。高校の勉強になると、中学校の勉強とは全くレベルが違うとかボリュームが違うとか、学校でできる授業は教科書に書いてある本当に基礎的なことしか教える時間が無くて、自分で相当勉強しないことには自分が志望する大学のレベルには達しない。自分でどんどん勉強する子はやると思うが、間のギャップをどうカバーするのかというのは高校教育の大学進学を希望する人達にはそれが全てだと思う。教科書を見て、教科書のことだけ勉強しても話にならない。大学入試レベルの話で、最近の探究力の話はまだよく分からないけれども、その間をうめる演習問題のレベルの話なんだよね。それをだんだん高いレベルまで上げていかなければいけない。その教えをどうやるかというのはおそらく飯山高校にとっては非常に大事なポイントだと思います。

子どもが飯山北高に入った時に数学の先生が非常に熱心で、私も見たが、数学の参考書の問題の解き方と演習が出ているところのプリントをもらってきた。生徒達が買っている参考書とは別に先生がそういうプリントを作って、生徒がちゃんとやっているか先生がチェックするんですよ。時間外にやっていたと思うんですが、そういうことを時間かけてやれば皆ある程度のところまではいけると思う。そういう勉強を、基本は教えるんだけどこの問題はこういうふうに解きますよとだんだん難しく複雑になっていく。その作業をどういうふうにするのか教えて、達成

度を見るということが現実的には必要なんじゃないかなと思う。先程岩上教育長もおっしゃっていたが、個別の指導というお話でそういうことにつながるんだと思う。やっぱりそのくらいやらないと、自分でどんどん勉強して親が黙っていてもやる生徒は別だけれども、全のレベルを上げていったりとか、勉強をやっていて自分で理解してこれだったら分かるなとか、また次の勉強をしようとかということをやっていく必要があるんじゃないかと。そのためには先生方には、先程長瀬教育長から話があったみたいに、熱意を持って指導しないと、カリキュラムがどうだという話ではないと思う。そうすればあるレベルまでいけると思う。それだけのベースは持っていると思う。それを具体的にどう実践させるかということにこの地域の高校が成功するかどうか、それで成果を挙げれば外からも当然ながら、あれだったらいいねというふうになる。そこが現実的なポイントだと思う。そのためには、熱心な先生に来ていただいて、どんどん変わるのではなくて、ある程度の期間をもってしっかり教えられるようなそういうことをやっていかないといけないと思う。

飯山高校同窓会長)

今の子ども達はいつ頃から将来こういう職業に就きたいとか明確なことを決定するのですか。

飯水中学校長会長)

キャリア教育というのが今始まってまして、小学校1年生からキャリアノートを今年から積み上げるということをやっているのですが、実際問題まだ中学校段階でどれだけの子がという率は言えないのですが、それほど多くないかなと思っています。高校へ行ってそこで考える子もいますし、中には大学進学を目指してというところで探究科を考える子もいますので、非常に幅があります。

飯山高校同窓会長)

一概にはいえないけれども今問題としているのは、高校へ行ってから考えるのでは遅いということですよ。だから中学の時点で、既に将来どうしたいから高校へ行ってこういう物を学びたいという。自分を振り返ってみても、中学生の頃何になりたいかなんて考えていた記憶もないけど、ただそれはもちろん親と先生と本人とで、小学校高学年じゃ早すぎると思うけど、中学校に入った時点で臆気ながらもそういうものを会話の中でやっていく必要があるのかなと思います。明確な自分の人生設計なんて言うと大げさだけど、将来自分はこういうことをやりたい、こんな仕事に就きたいということを中学に入った頃には夢でもいいからイメージを作っていく必要があると思います。話は飛びますが、私は長男だったこともあり、大学の4年間は別として飯山から離れて暮らしたことはないんですけど、自分はここで生まれてここで骨を埋めると子ども心に決めていたことで、家が商売をしていましたから地元に残って商売を継ぐということもあったかもしれないが、この飯山が好きだな。生まれ育ったところで骨を埋めるとするのは自分の気持ちの中で確立されていたから、雪が多くてこんなところは嫌だとか働く場所が無くてこんなところにいたくないとか思ったことが無くて、とにかくこの地域が好きでした。さっきも申し上げたが、この生まれ故郷北信州、飯山市周辺にはこういうお金には代えられないものがあるんだよと、ぜひ皆さん方若い内は都会で住むのも良し、でも最終的に帰ってきてよねというような話を中学生の頃から先生や親を交えて子ども達と常にお茶飲み話でもいいがやっていくような環境が必要だと思います。

飯山市教育長)

この飯山に住んでいて、経済状況がどんな状況であれしっかり勉強して飯山高校へ行けば、進学については飯山高校で保障してくれるという、そういうものが出来上がってくれば一番有難いかなと思うんですよ。長野あたりの子は塾に行ったり、個人的に先生を呼んできたりして小学校の後半から勉強している訳です。そういう子どもと18歳以後出て行き、同じ土俵に上がった時にまともにやりあえる最低限の力は飯山に住んでいてもできるんだということを実現してやりたいなとずっと思ってます。市長の理解があるのですが、GTECの導入だとかベネッセの導入だとかいろんな形で具体的に進めてる訳ですが、それが将来飯山高校につなげたいというそういう思いがある訳なんです。ただ滝澤校長先生とすれば高校は自分の気に入った先生を連れてこれないと思うんですよ。あの先生がいいなと思ってあいつが来れば絶対と思うけど、いろんな制限でダメだと思うんです。それだけに、小中も飯山の方に来る先生の希望が非常に少な

いという現状がある訳です。非常に大きな課題も背景にはあるので、何とか飯山へ行ってやりたいという先生がたくさん出てくれば有難いと思います。

飯山高校同窓会長)

地元出身の先生は年々少なくなっているのですか。

飯山市教育長)

ええ、そうです。だから飯山で奨学金制度を設けたのはそれです。

飯山高校同窓会長)

こうやって見てみると、この地域出身の教員が少なくなってきたりなど。

部会長)

飯山市も基金を設けて、奨学金を用意してます。

いろいろ意見を出していただきまして、おそらくこの次は全体会で中間報告になると思います。今日はいろいろ課題があぶり出されたかなと思います。飯山高校の進学校としての在り方の話、それからカリキュラムが変わって行ってより論理力、探究力を求める教育になってくるといふふうに思います。国がハンドルをきる話なので。だからそういうものにきちっと対応して次の進学に備えなければいけないという大きなテーマもあると思います。

今日いただいたご意見を事務局の方で骨格としてまとめさせていただいて、全体会の方へ臨みたいと思いますのでお願いします。それから、下高井農林高校部会についての第1回については資料2でお配りしてございますのでまたご覧いただきたいと思います。実業高校ですから、かなり具体的な内容についていろいろご意見が出されたようでございます。最後ですが、何か他にご意見ございましたらお願いします。よろしいですか。はい、大変有難うございました。より良い地域高校を目指してぜひ積極的なご意見をお出しいただければと思いますのでよろしく願いいたします。大変ありがとうございました。

子ども育成課長)

また、改めて全体会の通知は日程調整させていただいて出させていただきます。それから本日の部会の会議録、また農林高校部会の会議録は市のホームページの方で公開させていただきますのでご覧ください。